

研究評価委員会による研究課題の評価結果について(令和5年度)

令和5年9月

独立行政法人自動車技術総合機構 交通安全環境研究所

1. はじめに

交通安全環境研究所(以下「研究所」という。)は、以下を背景に、研究所が行う研究課題について、社会ニーズに照らした必要性、目的・内容の適切性等の観点から評価を行っていただくことを目的として、研究所外部の専門家、有識者の方々から成る研究評価委員会を設置しています。

- (1)「国の研究開発評価に関する大綱的指針」(平成20年10月31日内閣総理大臣決定)において、国費を用いて実施される研究開発について、社会・経済に貢献するように実施されること等を確保するため、外部の有識者による外部評価を実施し、その結果を研究開発の進め方に反映させるよう求められています。
- (2)国土交通省独立行政法人評価委員会(*参照。以下「独法評価委員会」という。)より、各独立行政法人研究所の個別研究業務の必要性等については、研究所自身がピアレビュー(当該研究分野専門家による評価)を活用して評価を行い、独法評価委員会は、その評価の体制や結果の適切性を二次的に評価するとの方針が示されています。

(*)独立行政法人通則法に基づき、国土交通省が所管する各独立行政法人の業績評価を行う、外部の学識経験者等により構成される委員会。

- (3)独立行政法人自動車技術総合機構交通安全環境研究所研究管理規程(平成28年4月1日研究所規程第19号)において、研究所が行う研究については、受託によるものを除き、外部の有識者から成る評価委員会による事前、中間、事後の評価を受けることとされています。

研究所では、透明かつ厳正な外部研究評価を確保するため、具体的な評価要領を「交通安全環境研究所研究課題評価マニュアル」として策定し、これに従って研究評価委員会による研究課題の評価を実施していただいております。評価の対象は、国費である運営費交付金により交通安全環境研究所が自主的に計画を定めて実施する研究課題(経常研究)としています。

研究所は、研究評価委員会の評価結果や指摘事項を最大限尊重し、必要があれば研究計画の見直し等を行い、また、その他の指摘事項等についても、今後の研究活動に反映していく方針です。

2. 評価の概要

(1) 評価実施日

令和5年5月29日(月)

(2) 評価者

評価者は外部の有識者により構成される交通安全環境研究所研究評価委員会(以下「研究評価委員会」という。)です。研究評価委員会のメンバーは以下に示すとおりです。

委員長	大 聖 泰 弘	早稲田大学 研究院 名誉教授
委 員	東 雄 一	公益社団法人 自動車技術会 常務理事
委 員	五十嵐 一弘	日本車輛製造株式会社 代表取締役社長
委 員	小 酒 英 範	東京工業大学工学部大学院 理工学研究科 教授
委 員	古 関 隆 章	東京大学大学院 工学系研究科 教授
委 員	柴 原 尚 希	中部大学 工学部 都市建設工学科 准教授
委 員	綱 島 均	日本大学 生産工学部 機械工学科 教授
委 員	鳥 塚 俊 洋	株式会社JAF メディアワークス 取締役
委 員	ボンサートン ラクシンチャラーンサク	東京農工大学 工学府機械システム工学専攻 教授

(委員長以下五十音順、敬称略)

(3) 評価の対象と種類

国費である運営費交付金により交通安全環境研究所が自主的に計画を定めて実施する研究課題(経常研究)を評価の対象としています。今回は、以下の①及び③に掲げる研究課題について評価を行いました。

- ① 令和5年度から実施する経常研究課題に対する事前評価
- ② 令和元年度から実施し、5年以上の実施期間を予定している特別研究課題及び経常研究課題に対する中間評価(本年度は該当無し)
- ③ 令和4年度に終了した経常研究課題に対する事後評価

(4) 評価結果

事前評価においては、社会的必要性、研究所が行う必要性、期待される社会的効果、また、事後評価においては、研究の進め方、得られた成果、期待される社会的効果等多くの視点に立った評価項目について厳正な評価をいただきました。評価は項目毎に5段階評価の上数値化(1～5点)し、ご出席頂いた委員の評価の平均を項目毎の評価としています。更に、研究課題毎に全項目の評価の平均点を総合評価としています。また、各項目及び全体について、各委員からご意見・ご指摘をいただいております。

その結果、個別の研究内容や成果については、専門的な立場から様々な視点に立った重要なご示唆、ご指摘をいただきましたが、事前評価については、今回評価対象となった全ての研究課題について、社会的必要性等が認められ、研究所が令和5年度から実施することが適当であるという評価をいただき、一方、事後評価については、研究の進め方は適切であり、期待された成果が得られているとの評価をいただきました。個別の研究課題の概要と評価結果の要約は、事前評価は別添1(別ファイル)、事後評価は別添2(別ファイル)のとおりです。

交通安全環境研究所では、これらの評価結果及びいただいたご指摘等を尊重し、必要に応じ、研究計画の適切な修正や研究業務の改善等に活用していくこととしています。

令和5年度 研究評価対象課題一覧

【事前評価】

課題番号	研究の種別	研究課題名	チーム長	研究期間
前 01	経常	営業車両によるレール/車輪接触状態監視技術を用いた走行安全性の評価に関する研究	一柳 洋輔	R5-R7 (3 年)
前 02	経常	地域の需要に応じた多機能モビリティシステムの活用に関する研究	大野 寛之	R5-R7 (3 年)
前 03	経常	高齢ドライバーの特性を踏まえた新型車両安全システムの評価方法に関する研究	関根 道昭	R5-R7 (3 年)
前 04	経常	カーボンニュートラルに向けた使用過程を含む電動車の安全・環境性能評価手法に関する研究	小鹿 健一郎	R5-R7 (3 年)
前 05	経常	カーボンフリー燃料の活用による内燃機関搭載車の環境負荷低減に関する研究	川原田 光典	R5-R7 (3 年)

【事後評価】

課題番号	研究の種別	研究課題名	チーム長	研究期間
後 01	経常	使用過程を含む電動車両の環境性能評価方法の検討と車載バッテリーの安全性の評価手法の高度化に関する研究	小鹿 健一郎	R2-R4 (3 年)
後 02	経常	高齢ドライバーの運転特性に基づく先進安全技術を利用した事故予防対策に関する研究	関根 道昭	R2-R4 (3 年)
後 03	経常	自動運転車の環境認識機能の正確性に関する研究	中川 正夫	R2-R4 (3 年)
後 04	経常	営業車両による状態監視技術を用いた軌道の評価に関する研究	緒方 正剛	R2-R4 (3 年)
後 05	経常	地域特性に応じた新しい公共交通システムの評価に関する研究	大野 寛之	R2-R4 (3 年)